

2016年度 湘南藤沢学会 研究助成金 成果報告書
言語教育の「商品化」と「消費」を考えるシンポジウムにおける
ポスター発表

総合政策学部 2年 李維寧

1. 概要

日程：2016年7月15日-7月18日

場所：香港大学（中国・香港）

2. 活動の目的

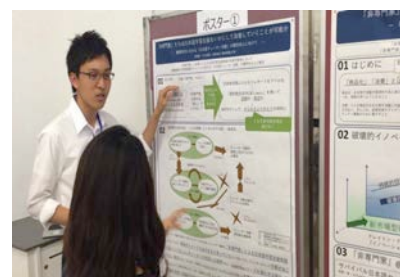
本発表では、実践主体である「非専門家」「素人」ら自身による日本語学習支援実践の改善可能性について慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス（以下、慶應SFC）で行なわれている「チューター活動」の「非専門家」「素人」による言語教育実践の意義や役割について、イノベーション・商品化・消費の観点から考察を行い、さらに「非専門家」「素人」らによる言語教育実践そのものについて議論を行う。そして本研究は「非専門家」らによる研究というだけではなく、「非専門家」らによる実践の、「非専門家」らによる改善のプロセスそのものであり、本研究の意義はまさにそのような研究と改善の融合にあると言える。またこの考察に対する意見を求めることで、言語教育・学習支援のより良い実践方法を探るとともに、考察の再認識を行なう。

3. 活動の成果

今回の国際学会の参加によって、以下の成果を得ることができた。

著名な研究者の方々の講演や刺激的な議論は、今後の自分の研究の指針や基盤を見出してくれた。また、多くの研究者の方々と交流する機会を持つことができたことで自身の研究を多く

の研究者の方々に認知して頂ける機会に恵まれたと言える。共著としての口頭発表では、日本語を母語としない方々にどのような会話練習法（直接法/間接法）を使用すべきかについて多くの意見をいただいた。



ポスター発表の様子

一方で筆頭としてのポスター発表では、他の大学の教員と意見交換をする機会にも恵まれた。そこでは「今後慶應 SFC で行なわれている日本語チューター活動のようなものを他の大学でも取り入れたい」という話もあがったことで、この研究が意味のあるものとして認知されていることが確認できた。

そして何よりも私自身、この国際学会で多くの研究者と交流できたことで、日本で生活している外国人としてのアイデンティティを見つめ直すきっかけにつながったと考える。このことは、これからの自分自身の研究に対する可能性を広めてくれるものだと確信している。

4. 今後の活動

日本語チューター活動は来学期も継続して行われるために、常に改善のプロセスを模索している。今回の研究成果、および他大学の研究者の意見も考慮した上で、今後も更に良い言語教育・学習支援ができるように続けて研究を行っていきたい。また、今後学会で発表する機会がある場合には発表したいと考える。

5. 謝辞

国際学会への参加に声をかけてくださった杉原由美准教授・伴野崇生特任講師をはじめ、シンポジウム発表にご協力いただいた大学関係者の皆様、そしてシンポジウムへの参加にあたって資金面で援助いただきました湘南藤沢学会に厚く御礼申し上げます。